

美里町産業活性化戦略会議の総括

平成27年3月

美里町産業活性化戦略会議

1 美里町産業活性化戦略会議とは

美里町産業活性化戦略会議（以下「戦略会議」という。）では、「美里町の将来を見据えた上で、産業特に『農業』を中心とした町の姿を創造し、今まで以上ににぎわいのある豊かな町にしていきたい」を産業活性化の理念として意見交換を行い、町の産業活性化へ向けた取組みの参考としていくことを目的とし設置された会議です。

2 基本理念と話し合いのテーマ設定

（１）基本理念

美里町の基幹産業である農業を元気にすることが、町全体の活性化に繋がるものと考え、これまでの農業に不足していた「儲ける」観点を養い、農業を生業とする農業経営者を増やしていくことで、発展や新たな展開から、農業を「儲ける」産業へ成長させていくことが必要であると考え、「本町の将来を見据えた上で、産業特に『農業』を中心とした町の姿を創造し、今まで以上ににぎわいのある豊かな町にしていきたい」を理念とし、「何を」「どのように」していくかのアイディアを出して行くことにしました。

（２）話し合いのテーマ

理念に掲げた将来の町のイメージに必要なものは何か、どのようにしていくかを考えると、「人々が集まり、農業を中心とした産業が元気であり、また産業を担う人々が育つ町」ではないでしょうか。このイメージを大きく『集まり～呼ぶ～』『産業～売る～』『人～知る・学ぶ～』の３つの柱に整理し、話し合いのテーマとしました。

①集まり～呼ぶ～

人や産業が集まることによりにぎわいが生まれ、地域の活性化に繋がります。「人が集い『観たい、行きたい、住みたい』賑わいのある美里町」を目指します。

②産業～売る～

産業の活性化のためには、商品売る＝儲けがあることです。「農業と農業以外の産業が連携した『美里型産業（農業）』、『美里ブランド』の確立」を目指します。

③人～知る・学ぶ～

産業を担う人材の育成、美里町の商品やイベント、取組みなど様々な情報の発信、また、情報の活用が必要です。「将来を担う人材の育成、将来が想像でき、安心できる美里町」を目指します。

3つの柱の頭文字「あ」「さ」「ひ」＝「朝日」になぞらえ、前向きな意見交換を行うことを確認しました。

3 意見の概要

集まり ～呼び～

人や産業が集まることにより、にぎわいが生まれ地域の活性化に繋がります。「人が集い『観たい、行きたい、住みたい』賑わいのある美里町」を作り上げていくためにはどうしたらよいか。

- ・農産物直売所として花野果市場、元気くん市場があり、農家が直接消費者に農産物を届けることができる場所として賑わいがある。生産者と消費者の交流の機会を増やし、さらに賑わいを創出していくことで、元気な町のイメージに繋がる。
- ・農産物直売所においては、野菜の「旬」の時期に、同じものが大量に出店されるため、調整機能やマーケティングなど、消費者が求める商品を安定的に提供できる仕組みを作ること、より消費者が集まる場所になるのではないかな。
- ・新事業、新企業が挑戦できる土台、環境を提供することで、新しいことにチャレンジしたい企業、人が集まるのではないかな。また、このことで、連携や相乗効果が期待できるのではないかな。
- ・若者が集まる拠点として、若者の夢を集約した形の施設が必要である。
- ・作ったもの（農作物や加工品）を販売できる施設や場所、販売先の開拓などが必要ではないかな。売れるもの、売り先があるもの。
- ・事業者が情報交換や交流ができる場所がないため、「ラボ」のようなイメージで活用できるスペースを設け、人が集まり、情報交換や交流・学ぶ機会を増やしていく。
- ・美里町でしか買えないもの、お得感、満足感を感じられるといった購買意欲をそそる商品の開発、販売戦略から、美里町の名物といえるものを作り上げ、集客につなげていく。
- ・内外に分かりやすい「美里ブランド」といえるものがないので、美里ブランドとして認定する制度を創設してはどうか。
- ・美里町の基幹産業は『農業』であり、町は食材の宝庫といえる。その強みを生かし、産業活性化のメインテーマを『食』とし、核となる食材、品質、魅力を磨き上げることで、町のPRや来町者の増加に繋がる。
- ・町の意識改革。「農業が基幹産業の町」から「安心安全の食糧基地の町」として、町の魅力を発信してはどうか。
- ・町の観光資源としては、山神社が有名であり多くの人が参拝に訪れている。この方々が立ち寄りたいたいと思う町の農産物や、名物の販売チャンネルとなる施設（芝の公園、温泉施設、SLの展示）が必要である。
- ・施設に人を集めるため、施設自体に目玉となるような特徴を持たせることも必要である。

- ①町の産業、商品に関する情報発信、農産物、名物の販売といった美里町へ人を呼込むための中心となる施設の整備へ向けた取組み。
- ②美里町の産業と連携を図れる企業の誘致に向けた取組み。

産業 ～売る～

産業の活性化のためには、商品売る＝儲けがあることです。「農業と農業以外の産業が連携した『美里型産業（農業）』、『美里ブランド』の確立」を実現していくためにはどうしたらよいか。

- ・米、麦、大豆など、従来から農家が力を入れてきた作物の生産を支援しつつ、社会情勢の変化に対応できる生産体系の確立へ向けた新たな展開へ進めていく。
- ・汎用水田を活用した野菜生産の可能性を探り、生産規模拡大の弊害となっているものを検証し、対応していく必要がある。
- ・汎用水田での野菜生産の拡大のため、機械化や省力化、生産量（収入）の安定化には何が必要であるか、効率的な支援を検討していく。
- ・生産物の販売体系は、農協を通じた市場出荷、農産物直売所での直売が主流であり、一部契約栽培に取り組む生産者がいる。多様な販売チャンネルの開拓のため、実需者が求めているもの、量、必要な時期などを把握できる体制の整備を進める。
- ・企業との連携、マッチングを行い生産者と売り先を結び付けていく。
- ・市場価格の影響が少ない契約栽培に取り組む生産者の拡大を図るため、契約栽培とはどういうものなのか、生産者の理解を深める。
- ・美里町でしか買えないもの、お得感、満足感を感じられるといった購買意欲をそそぐ商品の開発、販売戦略から、美里町の名物といえるものを作り上げていく。
- ・「農商工連携」や「医福食農の連携」など多様な産業との連携による相乗効果から町全体の活性化に繋がる取組を展開していく。

- ①農産物の販売チャンネルとして、市場出荷、農産物直売所、軒下販売（対面販売）のほか、食品関連産業、大手流通メーカーなどへ積極的な販売促進活動を行い、契約栽培の取組拡大など新たな販売チャンネルを確保する取組み。
- ②民間活力の活用や新たな取組みへの支援などを通し、園芸作物の生産拡大、生産の安定化を進め、多様な販売チャンネルへの確保していく取組み。
- ③町の農産物や名物となる商品の販売促進の取組み、特に消費者に対し安全安心、お得感といった購買意欲を高め、販売に繋げて行く取組み。

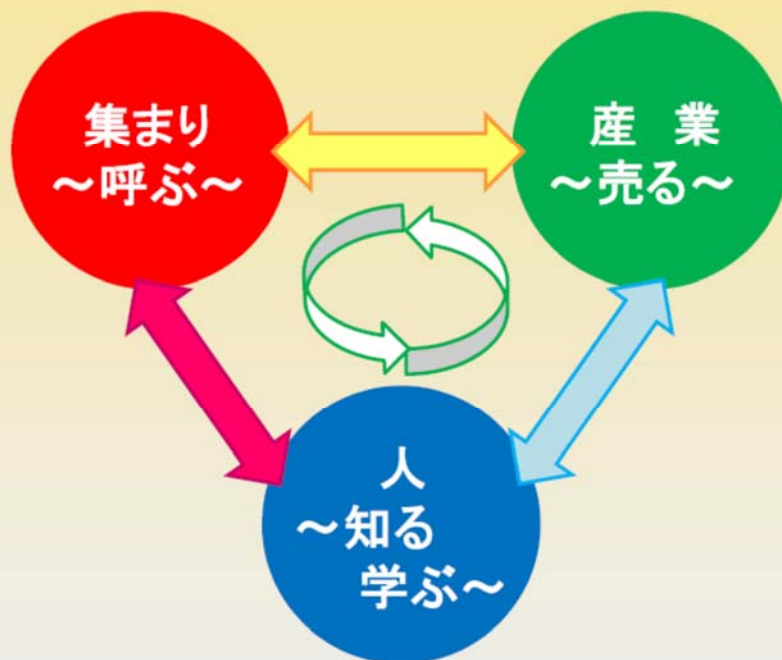
人
～知る・学ぶ～

産業を担う人材の育成や、美里町の商品やイベント、取組みなど様々な情報の発信と活用から「将来を担う人材の育成、将来が想像でき、安心できる美里町」を作り上げていくためにはどうしたらよいか。

- ・担い手の高齢化や後継者不足などの不安を解消するため、新たな担い手の育成や世代交代を促していく。
- ・集落営農組合の法人化を進め、地域農業を守る担い手として育成していく。
- ・経営や生産技術の研修制度など、新たに就農する方が求める支援策を創出し、新規参入や新規就農者、経営の世代交代を促進するための取組みを強化する。
- ・学ぶ機会、交流の機会を創出し、農業を「生業」として経営感覚を持った生産者を育成する。
- ・野菜生産など人手が必要なものこそ、女性の力や高齢者の栽培技術、仕事の丁寧さを活かし、産地化の力としていく。
- ・町の農産物を使用した名物となるものを見出していくため、6次産業化を促進し、新たな町の名物などを研究・開発できる環境を作る。
- ・町の産業に関心を持ってもらうための体験できる制度を創設し、新規参入、起業支援につながるような仕組みづくり
- ・産業の活性化のため、将来の産業を担う人づくりに繋がる事業を積極的に展開する。

- ①将来の産業を担う人づくりに繋がる事業の積極的な展開。
- ②美里町の農産物を使用した加工品・特産物といった町の名物となる商品を開発するための研究や研修、加工から販売まで包括的に行う施設の整備へ向けた取組み。
- ③、魅力あるイベント、産業の担い手への支援などをPRし、「見たい。行きたい。住みたい。」と感じる町にしていくための取組み。

将来に向けた『美里カラー』の創出



「あ」集まり～呼ぶ～・「さ」産業～売る～・「ひ」人～知る・学ぶ～の3つの柱の視点から活性化に向けた取組を展開し、それぞれの取組の連携、相互補完から相乗効果が生まれ、美里町全体の活性化が期待できます。

4 「あ・さ・ひ」テーマの実現へ向けて

産業活性化施設の設置

美里町の方針として、活性化施設の整備に向けた検討に着手するとされていますので、活性化施設を産業活性化の中心となる場所として位置付け、「あ・さ・ひ」テーマを実現できる機能を附帯することが望ましいと考えます。

活性化施設のコンセプト

美里町の基幹産業は農業であり、食材（農産物）の宝庫です。この町の強み（カラー）を活かすため、活性化施設のコンセプトを「食」とし、町の食材（農産物）を活用した、6次産業化や企業との連携、名物となる商品の開発から加工・販売などを包括的に展開し、町内外に町の魅力を発信できる施設が望ましいと考えます。

活性化施設を道の駅へ

国土交通省では、道の駅を地方創生の拠点と位置付け、新たな取組みを展開しようとしています。これは、元々、ドライバーが立ち寄るトイレ・休憩施設として生まれた道の駅は、現在、道の駅自体が目的地となり、地域の特産物や観光資源を生かして人を呼び、その地域に仕事を生み出す拠点へと進化を始めています。戦略会議で話し合ってきた「あ・さ・ひ」テーマの実現を考えたとき、道の駅が持つ機能を活用することが効果的と考えます。

このことから、活性化施設と道の駅を一体的に整備することについても検討が必要だと思われます。

5 最後に

戦略会議では、「本町の将来を見据えた上で、産業、特に『農業』を中心とした町の姿を創造し、今まで以上ににぎわいのある豊かな町にしていきたい」を基本理念に置き、話し合いのテーマとして「あ・さ・ひ」の3本柱を立て、これからの美里町の産業のあるべき姿、理想像などについて意見交換を行ってきました。

美里町の産業振興の取組みは、美里町総合計画において「力強い産業がいきづくまちづくり」基本理念に、事業を展開しています。これらの事業を継続していくことに加え、新たに美里町の産業を活性化していくため、戦略会議で話し合われた内容が、これからの取組みの参考となることを希望します。

また、活性化施設整備に向けては、美里町において具体的検討を加え、活性化施設が活きた施設となるよう進めていっていただきたいと思います。

参考資料

美里町産業活性化戦略会議名簿

	氏名	選出区分	役職名
1	あわの としお 栗野 敏夫	スカイラークアワノ	代表
2	わくい よしのぶ 涌井 良 宣	認定農業者	美里町認定農業者連絡協議会 会長
3	おさき まさる 尾崎 勝	みどりの農業協同組 合	常務理事
4	わたなべ けんめい 渡部 憲明	(株)渡辺採種場	企画・開発部 部長
5	わたなべ しんみ 渡邊 新 美	遠田商工会	会長
6	たけだ まさはる 武田 正晴	(株)東北イノアック	小牛田工場長兼管理部 部長
7	なおえ ときこ 直枝 朝 子	生産者	
8	ささき こうこ 佐々木 幸子	生産者	
9	すがわら みやこ 菅原 都	生産者	美里町農業委員会 委員
10	み かみ あらた 三神 新	生産者	美里町消防団 団長
11	にった こういち 新田 耕一	生産者	
オブザーバー			
1	やまうち かずや 山内 一也	河北新報社小牛田支 局	記者
アドバイザー			
1	こうりき みゆき 高力 美由紀	公立大学法人宮城大 学	事業構想学部事業計画学科 准教授
2	きくち かおり 菊地 郁	公立大学法人宮城大 学	食産業学部ファームビズネス学科 准教授

会議経過

第1回

平成26年7月28日（月）18時00分から
美里町役場3階大会議室

第2回

平成26年8月25日（月）18時00分から
美里町役場3階大会議室

第3回

平成26年10月2日（木）16時00分から
美里町中央コミュニティセンター 2階 第3研修室

第4回

平成26年12月22日（月）16時00分から
美里町中央コミュニティセンター 2階 第3研修室

第5回

平成27年3月27日（金）18時00分から
美里町中央コミュニティセンター 2階 第3研修室